

第五十日目

師 範：水野忠邦は、1834年に老中になり、7年後から改革に乗り出しました。
このころの社会は、天災やききんや一揆や打ちこわしが続き、さらには大塩の乱までがおこり、混乱し始めていました。



政治と財政が揺らぎ出したのを再建しようとしてしました。
儉約令や出版統制や風俗の取り締まりなどきびしくしました。
株仲間を解散し、藩の専売制を禁止したりして流通を改めようとしてしました。
出かせぎに町に出て来ていた農民を村にもどしました。
大阪の見入りのいい土地を幕府の土地に取り替えようともしました。
しかし大名や大商人や庶民からも歓迎されず、失敗に終わりました。

1841年 天保の改革がはじまる。

この年を覚えましょう。

ペン太：このようなものはいかがでしょうか。



「天保の水野忠邦 ひとはいが改革はだめ」

1841をすなおに「ひとはい」と読みました。

師 範：長い気もするが、語呂はいいですね。
天保の改革のイメージはよくできていますよ。

コン太：では



「人は善いように言わない天保の改革」

「ひと」は1、「は」は8、「よ」は4、「い」は1と読みました。

師 範：少し直して

「天保の 失政忠邦 人はよい」

コン太：もう一つ

「水野一人はよいが、あとはだめな天保の改革」

「ひとり」は1、「は」は8、「よい」は41としました。

師 範：なかなかいいのができますね。